

# 臨床研究

## 非結核性抗酸菌症に関する観察研究

version 6.1 20200123

当院の呼吸器内科では、非結核性抗酸菌症と診断された患者さんについて検討する臨床研究を行っております。ご不明な点があればお問い合わせください。

研究課題名：非結核性抗酸菌症に関する観察研究

背景：非結核性抗酸菌症は、非結核性抗酸菌（結核とは異なるが、結核の仲間である菌）が感染しておこる病気です。近年非結核性抗酸菌症と診断される患者さんが増加しています。非結核性抗酸菌には多くの種類があり、どの菌がどのような人に病気を起こすのか、どのような治療が望ましいのか、診断後の経過がよい人と悪い人の違いが何なのか、などまだ十分に分かっていないことがたくさんあります。特に稀な菌による非結核性抗酸菌症は、世界的にみてもまとまった報告が少なく、知見が少ないのが現状です。稀な菌を同定する新しい手法も開発されていますが、その妥当性はまだ十分に評価されていません。

研究目的：非結核性抗酸菌症の疫学的頻度、臨床像、治療、予後、医療費について検討します。

研究方法：多施設共同で行う観察研究です。非結核性抗酸菌症と診断された患者さんの臨床像と治療、予後、検査内容、治療費について菌種や病態別にまとめ、その特徴を検討します。また稀な菌の菌種同定法の比較などの検討を行います。研究で対象となる非結核性抗酸菌は、結核菌以外の抗酸菌です。菌株および臨床情報は、解析のために外部施設に提供されます。

対象となる方：培養検査に基づき非結核性抗酸菌症と診断された方

対象となるデータの期間：2000年1月～2025年12月

研究(予定)期間：理事長承認日から2026年12月まで

倫理的事項：本研究は当院の倫理委員会で承認を受けた観察研究です。研究によって診療内容が変わることはなく、皆様が医学的不利益を被ることはありません。個人を特定できる形で情報が解析されることはありません。当科で非結核性抗酸菌症と診断された方で、研究の対象となることを希望されない場合には、主治医または下記の問い合わせ先へお伝え頂ければ、研究の対象外となることも可能です。対象外となることによる不利益はありません。また、研究に関する資料を個人情報や研究に差し支えない範囲で閲覧することも可能です。

研究へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究協力機関：慶應義塾大学医学部 長谷川直樹、複十字病院 倉島篤行、  
国立感染症研究所 星野仁彦、東名古屋病院 小川賢二、他

問い合わせ先：国立国際医療研究センター呼吸器内科

井上佐智、森野英里子(火曜日)、高崎仁

TEL:03-3202-7181(代)、FAX:03-3207-1038